

「夢への挑戦」 特別養護老人ホーム新和苑施設長 船元隆之

「中尾有沙さん」

この名前を聞いて、ご存知の方もおられると思います。

去る12月8日、夕方のテレビで、9日に熊本市で中尾有沙さんの講演会が開催されるということを知り、急遽参加させていただきました。12月3日から9日までは、『障がい者週間』として位置づけがなされています。障がいや障がい者への関心と理解を深め、障がい者の社会参加への意欲を高めるための啓発活動を行うことを目的とするもので、そのための一環として開催された講演会でもありました。

中尾有沙さんは南阿蘇村の出身で30歳の女性の方です。地元の小・中・高校を卒業し、熊本大学、熊本大学大学院を経て、現在は株式会社祐和會に所属、四季の里旭志に勤務をされておられます。

講演のタイトルが「夢への挑戦」～陸上三段跳びから車いす陸上へ～でした。

彼女は主に走り幅跳びの選手として県内外の競技会において活躍された名選手でした。

彼女が陸上を目指すキッカケになったのが、1998年に熊本で開催された陸上競技の日本選手権大会、そして翌年に熊本で開催された国民体育大会だったそうです。連日のように会場へ足を運び、一流の選手を目の当たりにして、彼女自身に大きな目標が2つできたそうです。

1つが「陸上競技の選手になりたい。」

2つめが「日本一になりたい。」ということでした。

その後、大きな大会に参加するも、表彰台の一番高いところには上ることができなかったそうです。

しかし2015年、陸上の日本選手権・三段跳びで念願の優勝を勝ち取ることができました。その時はうれしい思いとビックリした思いと同時に、新たな目標が生まれたそうです。それが

2016年も一番高い表彰台に立ちたい。そしてリオデジャネイロ・オリンピックに日本代表として出場したい。さらに2020年の東京オリンピックも目指したいという思いだったそうです。その新しい夢の実現のためには新しいトレーニング（ウェイトトレーニング）が必要だと取り組まれていた最中の、2016年1月30日、約150キロの重りを肩にかけているとき、バランスを崩し胸髓の11番と12番を損傷（脊髄損傷）し、現在の車いすの生活へとなりました。怪我の一報を聞きつけ、家族、会社の方、そして大学の時の先生も駆けつけられたそうです。先生からの病状の説明も、彼女の希望で家族のほか、会社の方、大学の先生にも立ち会っていただいたそうです。先生から「今後は車いすの生活になる」との説明を受けた際には、泣くとか、気が動転するといったことはなかったとのことでした。冷静に受け止められたそうです。

今、彼女が大切にしていることは笑顔で少しでも前を向くように心がける。そうすることにより、新しい夢を発見できると・・・

会場内の参加者から「あの時に戻ることができるならば、いつのころに戻りたいですか？」との質問がありました。彼女は「戻ることができるなら、怪我をして1週間くらい病院のベッドに寝ていた時に戻りたい」と話をされていました。何故なら「すべての人に素直に感謝の気持ちを持つことができるからと・・・怪我をしていなかったら、こうして人の前で話をするのもなかった」と述べておられました。

今では車いすマラソンで、東京パラリンピックを目指して日々練習を行っているとのことでした。会場には中学生の娘様を同伴したお母様も参加しておられ、その娘様も交通事故により車いすの生活を送っているけども、目標をもてるようにと、娘様も車いすマラソンを目指しているとのことでした。

彼女は「今まで生きて中で苦しかったことはない。今後苦しいことがあったとしても自分一人だけではないので、周りの人がたくさんいるから不安はない」とも話をされていました。今後の活動として、お金を使わずにバリアフリーはできないか？障がい者自らバリアフリーを広めていきたい。特に心のバリアフリーを広めていきたいと・・・

「頑張っている人に頑張ってとは言えないけれども、私も頑張るからみんなも頑張って。」と、言える
と・・・

トレーニング中の事故からまもなく2年がたちます。今では自分で車を運転し、各地を講演会等で回っていらっしやいます。一昨年は熊本地震も発生し、自分を取り巻く環境が大きく変化したにも係わらず、常に前向きな姿勢で取り組むことに深く感動を覚えました。

講演会が終了し、会場を後にしたとき、何故か心が豊かになっている自分を感じることができました。